せいかつか

SEIKATSUKA EDUCATION

第 7 号 **2000**

長年の疑問が今解けつつある!

谷川彰英



約10年前,私が生活科に関わった時,抵抗なく生活科に入り切れたのは,それなりの理由があったようだ。それは,生活科という教科は子どものニーズを出発点にして,常に未来志向の教科だったからではないか。もし私が生活科にかかわることなく40歳代を終えたとしたら,実につまらない研究生活を送っていたのだなあと感慨深く思うことがある。生活科を通してめ

ぐり合えた素晴らしい学校の教師たち、そして教育界以外の多くの人々との出会いはまさに私 にとって生涯の宝である。

「人間」にとってどんな人と出会えるかが大切なように、「教科」にとってもどんな人とめぐり合えるかは決定的な意味を持っているように思う。その点、生活科は本学会に集まっているこのような教師達に支えられているわけで、幸せ者だと言っていいだろう。

私が教育学という学問を志したのは高校2年生の秋のことだった。当時受けていた(まさにこの表現がぴったりだった)授業に疑問を持った。本当の教育ってこんなものではないはずだ。「自分がやりたくもないことを、なぜ覚え込まされるのだろう」という根本的な疑問を解くために教育学の世界に入った。今この年になって、ようやくその疑問が解けそうになってきた。

従来の学校教育は余りにも、国家の管理下に置かれてきた。学習指導要領はどんなに子どもの主体性を強調しようとも、結局は国が要請する学力を求めてきたのである。それに対して、新設されることになった「総合的な学習の時間」は徹底して国家の埒外に置かれている。これこそ、人間が「学ぶ」ということの原点であると言ってよい。30年以上も前に抱いた私の素朴な疑問は、少しずつだが解きほぐれてきた。教育ってのは、本来子どものためにあるんだろう!という思いが少しずつ実感として理解できるようになった。

その総合的な学習の成立を促したのは、紛れもなく生活科の理論と実践であった。生活科がなければ、総合的な学習などとても成立すべくもなかった。このたび、『趣味を生かした総合的学習』という本をまとめた。人間が「好きなこと」を好きなように学ぶことが教育でないわけがない。

目》次

◆長年の疑問が今解けつつある./	1
特集・「生活科から総合へのつながり	
◆教科としての生活科の見直しと総合への接続・発展の可能性 日 台 利 夫	4
◆生活科から総合への時間へのソフトランディング ············村松和彦・金子 渉・高島俊幸 - 自分と人 自分と社会 自分と自然 -	10
◆生活科から総合的な学習を考える	16
◆生活科における国際理解教育一身近な人々とのふれあいを通して一	22
◆生活科と「総合的な学習の時間」における学習の同質性について高 浦 勝 義	28
特集Ⅱ 子どもの変化と生活科	
◆子どもの変化と生活科····································	34
◆幼小連携による新しい生活科の創造森 江 一 史	40
◆子どもの「思い」が「不可能を可能にする」学習活動大 縄 和 子 ー「秋がいっぱい」の実践を通してー	46
◆子どもの日記と教師の朱筆の分析をふまえた支援の在り方 田 田 利 章	52
◆集団不適応児を中心とした生活科授業構成による個人と学級集団の変容円伊田弓子	59
自由稿	
◆学びの社会的編成:作品づくりについての再検討稲垣成哲・山口悦司	65
◆大正期の「生活科」と「総合的な学習の時間」の共通性に関する研究 ·········村松友和・川上昭吾 -愛知県岡崎師範学校附属小学校における「生活科」の事例から -	73

◆生き物とその飼育を主題にした絵本と小学校生活科学習との関連性高橋畝之・鎌野智里 -先行体験としての幼稚園教育における絵本環境 -	81
私の授業づくり	
◆自然にひたり,人々と心を通わせる生活科 ·······松 本 知 子 -地域の素材を生かして-	89
◆地域に積極的に関わり子どもたちの自立を目指す授業·······小岩井彰 ー「町に出て働こう」の授業づくりー	92

日本生活科教育学会会則	97
学会だより	98
学会誌編集委員会投稿及び編集規定	100
編集後記·····	101

